

藤 沢

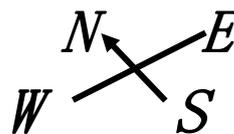
エコネット

藤沢環境運動市民連絡会議

(略称) 藤沢エコネット

2024年6月1日

第361号

主
な
記
事

- ・ 平和行進に参加して
- ・ 気候危機市民学習会開催
- ・ 「平和の危機と表現の自由」
- ・ 藤沢の谷戸を楽しもう！

<http://econet2015.sakura.ne.jp>
事務局 e-mail: aoyagipc@jcom.home.ne.jp 青柳

FAX 0466-87-4922

エネルギー基本計画の見直し ～6月環境月間に寄せて～



想像してみよう！電気は買う時代から作る時代を！！

個人・共同住宅（マンションも）・事業所・畑・田んぼ、可能な限り、太陽光発電普及のまちを！

分散型エネルギーシステムで温暖化を止め、災害に強く、熱中症の心配のない暮らしを！

気候非常事態宣言で「2050年ゼロカーボン、脱炭素社会の実現」を表明した藤沢市では、「2050年ゼロカーボン」とラッピングしたゴミ収集車が走り、循環型社会確立のため活躍しています。

一方、太陽光発電は、市内約20万世帯の内3,000件（1.5%）程度しか普及していません。しかも、近年、補助制度の活用は進んでいません。

今年3年ごとの検討が義務付けられている国の中長期的な方向性を示す「エネルギー基本計画」の見直しが行われる年で、第7次策定に向けた議論が始まりました。今回、策定される温室効果ガス削減目標は、日本の国際公約に対応した形で、2025年末の国連気候変動枠組条約第30回締約国会議(COP30)に提出されます。前回、基本計画を改定したのは2021年で、原発の依存度を「可能な限り低減する」と明記しています。今回、基本計画の見直しに当たり、この「可能な限り低減する」の表現を見直すかどうか大きな争点です。

パリ協定の掲げる1.5度目標の実現には、気候変動に関する国連会議「COP28」（2023年12月）で国際合意した「2030年に向けて、再エネ3倍、省エネ2倍の水準にしつつ、化石燃料からの転換を加速させること」を盛り込んだ「エネルギー基本計画」が求められます。

すなわち、深刻化する気候危機の対策として、化石燃料による発電の削減、とりわけ石炭火力発電からの一刻も早い離脱が求められています。

気候危機打開のためには、すでにコストが低下している再生可能エネルギー（再エネ）に力を振りむけるべきです。「再エネ」が遅れている日本では、脱炭素電源が不足するため、電力の新規需要に対してどのように対応するかは大きな課題です。

資源に乏しい日本における持続可能社会の実現のカギは何か？ エネルギー自給率を高めることです。

「カーボンニュートラル資源立国」をめざすならば、エネルギー資源を外国に依存するのではなく、国産のエネルギー資源（太陽光、風力、地熱、潮流・波力、水原料の水素など）構築により脱炭素社会をつくることです。

藤沢市においては様々な再エネの中で、ベストは太陽光であると「エネルギーの地産地消推進計画」を市議会で決議しているが、市民には十分浸透せず2030年～2050年を迎えることになると脱炭素電源が不足します。このままでは、やむを得ず原発再稼働ということが避けられなくなるかも知れません。

第7次エネルギー基本計画の議論が始まったことから市民自らのミライを一緒に考えていこうではありませんか。
(一般社団法人ふじさわサンエナジー理事長 宮地俊作)

平和行進に参加して

5月16日10時、藤沢市役所本庁舎前の広場に、各平和団体代表等110名からの参加者が集い、主だった団体からの挨拶およびメッセージ等、式典が行われた。

うす曇りの空は春の気配を漂わせ、半袖や長袖の参加者は思い思いの出で立ちで、式典に臨んだ。

10時40分スタート、被爆者の会等先頭に次々と横断幕やのぼりを持ち、整然と行進に臨んだ。遠くは愛知県から参加し、東京—広島コースを、歌う通し行進者と自ら名乗りを上げる大村美穂さんの力強いメッセージ等思いもしないびっくりするような参加者を迎え同行者として何かジンと来るものを感じた。

昨年迄、藤沢市役所前から茅ヶ崎市役所迄の旧一号線のコースは大きく様変わりし、藤沢市内繁華街を歩くコースに変わり、歩道を歩く人々の「頑張って」の一言にも勇気づけられる。藤沢橋交差点を左に折れた、ややだらだら坂は、高齢者にはきついかもの事前の話もあったが、先導者の声高らかな案内に勇気づけられ、引っ張られ、何てことなく無事通過、登り切る手前に藤沢診療所が見えてきた。左歩道一列に白衣をまとった看護師さん達数名が並び、それぞれが手を思い切り振り、白衣がまぶしかった。時々通う馴染みの顔、涙がこぼれそうになった。



(前列左端が埜下さん)



もう何年歩いたことか、過去いっしょに歩いた先輩同志は別れ際に言った。「ひと足お先に向こうで待っているよ」と半ば冗談とは言え元気な声が今でも耳に残る。

残された時間は少ない。核兵器禁止条約に被爆国日本は参加し積極的に橋渡し役を務め、いち早く核のない世界の実現へと努力しなければならない、言うまでもなく全国の被爆者の切なる願いです。いや、全世界の平和を願う人々の叫びです。

(藤沢市原爆被災者の会 埜下雅美)

気候危機市民学習会開催

5月19日、市民活動推進センターで、藤沢地球温暖化対策について、NGO 気候危機アクション藤沢主催で市民学習会が開かれました。テーマは「ゼロカーボンをめざす藤沢市・地球温暖化対策の具体策」について、市の環境総務課ゼロカーボン推進担当の細谷主幹より、約1時間30分にわたって講演が行われました。参加者は、Zoom参加2名も含め13名でした。



①、講演は、まずはじめに、地球温暖化とはどういうことかについて説明がありました。太陽から放射される熱は、地上から放出され温室効果ガスによって吸収され、大気が暖められる。温室効果ガスがなかったら地上はマイナス18度程度と想定される。これまで、温室効果ガスによって地球の平均温度は約15度程度に保たれてきた。ところが近年、産業活動の活発化されることによって、温室効果ガスが多量に放出され、急激に地球の気温の上昇が進んでいるのを防ごうというのが全世界的規模の地球温暖化防止対策である。

②、カーボンニュートラルとは、二酸化炭素をはじめとする温室効果ガスの排出を抑えると共に、二酸化炭素を吸収する森林などを増すことによって温室効果ガスの発生を実質的にゼロにしようというものである。

③、藤沢市のゼロカーボンに向けてのとりくみは、2050年までに二酸化炭素排出量を実質ゼロにしようと、2021年2月に「藤沢市気候非常事態宣言」が発せられた。さらに2022年3月に改訂された実行計画では、2030年までに2013年度比46%削減をめざそうという計画が追加された。

④、さらに、地球温暖化対策事業として、藤沢市独自の補助金事業が発足。具体的には、太陽光発電システム、蓄電池システム、燃料電池システム(エネファーム)、雨水貯留槽、電気自動車導入費、燃料電池自動車導入費等々に対し補助金が支給されるようになった。但し、補助件数、金額が僅少なので、もっと拡充が望

まれます。

学習会は、質疑、討論を含め2時間30分程行われましたが、沢山の質疑討論が出され、盛況でした。参加者からは、細谷主幹の話は分かり易かったし、質疑にも丁寧に回答してくれたとの感想が寄せられました。(小林麻須男)

神奈川憲法会議5.3県民の集いに参加して 「平和の危機と表現の自由」を考える

私が大切にしていることの一つは、憲法記念日に憲法を学ぶ場所に参加、行動することです。今年は志田陽子先生の講演「平和の危機と『表現の自由』～人権保障こそが安全保障」に惹かれて参加しました。

志田先生は講演の冒頭、「私は社会活動と共に、趣味の音楽活動でボーカルとして平和と戦争とはどういうものか、憲法を歌でつづることをしています」と自己紹介されました。そして、映像でダニーボーイのメロディに合わせて歌う先生の声が流れました。憲法前文の呼びかけと戦争によって心を壊されたアレン・ネルソンさんが、「アメリカにも9条があってほしい」と訴えられたことを歌いました。私はふるさと北海道の矢臼別自衛隊演習場の平和祭りで、ネルソンさんのお話を聞き、握手したことを思い出し、胸がいっぱいになりました。

講演は、軍備を増強して抑止力をもてば「安全」なのか、その危険性の側面について憲法を知り、主体的に学ぶことを強調されました。「安保3文書」「防衛3文書」は憲法、国際法に違反していること、平和的生存権は人格権でもあることをウクライナ問題などから具体的に話されました。「憲法保障こそ安全保障」、憲法前文の「平和のうちに生存する権利」について、「日本は今、緊張の真ん中にいて、軍事力で威嚇してドヤ顔している人は、信頼できない!!」と強調されました。

講師のもう一人は、海渡双葉さんという若い弁護士さんでした。「ひろがる秘密保護の網」でした。これはとても怖い法案で、戦前の治安維持法そのものです。「この法案の本質は『経済安保版・秘密保護法案』です」と双葉弁護士さん。双葉弁護士さんは時間がなく、早口で、もっとゆっくり

聞きたいと思いました。ぜひ機会をつくってほしいです。

桜木町までのデモ行進は沿道の反応に励まされました。(小柳倫子)

藤沢の谷戸を楽しもう！

6月に入ろうとしていますので、丸山谷戸のゲンジボタルがそろそろかと気になります。お隣の茅ヶ崎里山公園も水辺のある公園で池周辺の林でキビタキが鳴いていました。このように藤沢とその周辺には谷戸の景観を生かした公園があり、いずれも魅力的なところですよ。私の住む石川には近くに遠藤笹窪谷(ささくぼやと)公園があります。ここは最近整備されて一時は重機も入っていたので敬遠していたのですが、早春にアシ原でクイナ(写真1)とヒクイナ(写真2)が同時に見られたためそれからたびたび通っています。

4月から5月、各種野鳥のさえずりが聞こえます。多いのはウグイスですが、中に1羽“ホーピョローン”と鳴くのです。谷戸を囲む森を1周するように移動して鳴くので、行動範囲が知れて興味が湧きました。



(写真1) クイナ



(写真2) ヒクイナ

谷戸の景観は湿地、水ですので、いろいろなトンボにも出会います。公園の奥のアシ原に、黒っぽい小さめのトンボに会いました。3頭がトンボ独特の縄張り行動で、近づくトンボを追いかけていました。全体の色合いはオオシオカラトンボのようですが小型で、後に



(写真3) ハラビロトンボ



(写真4) ハラビロトンボ メス

ハラビロトンボとわかりました(写真3)。翌々日に同じ場所にはオスはおらず、別のトンボがいました。黄色みの地に黒い筋で、図鑑通りのハラビロトンボのメス(写真4)でした。その他、あまり他所では見かけないヤンマもあり、谷戸が魅力いっぱいなの所と感じました。これからも楽しめそうです。みなさんもいかがですか? (菅谷芳雄)

「人が安心して暮らせる住居の保証は基本的な人権の問題だ。」という言葉に納得し、私たちの仕事は希望への道案内なんだと思っています。

この店から社会が見え希望が見えるのです。

(益永由紀)

ECONET INFORMATION

▲ここでくらすそ 6月9日(日)

第1回 文化芸術フェスタ・藤沢

奥田公園 10:00-16:00 雨天中止

ステージ ふじさわ市民ミュージカル

江の島フラ・パラダイスオハナ他多数

ワークショップ キッチンカー ショップ

主催 藤沢の文化芸術を考える会

▲NGO 気候危機アクション藤沢定例会

6月21日(金) 夏至 3:30-5:30

場所 湘南台公民館文化室

エネルギー基本計画についてなど

定例会後にキャンドルナイト予定

主催 気候危機アクション藤沢

▲震災復興支援コンサート in ふじさわ

6月29日(土) 13:30-15:30

場所 藤沢市民会館第1展示ホール

藤沢合唱団 福島の今は(山内若菜)

ちびっこ幼児教室のみなさん ほか

当日券 500円

主催 同実行委員会

▲藤沢エコネットから

◆会員募集 年会費・購読料→2000円

◆総会 6月12日を都合により延期

◆事務局会議 7月6日(土) 10時

六会公民館

《編集後記》紫陽花の映える季節になり、暑くもなく寒くもなく気持ちよい季節。台風がこなければ、だけれども。

世間は裏金脱税事件や都議選など政治状況に目が離せない。投票権のない企業・財界からの献金を止めれば利権で動く政治から、国民のための政治となるものを、利権の甘い汁から離れられない。民主主義の民主とは民衆(私達)が主権者ということを忘れないように。(A)

エコストアパラギから広がる世界

そして希望!

<始まり>

5年前、この店を知り講演会、セミナーなどに足を運び、私の世界観は大きく変わりました。気候危機はこのままだと子供たちの未来は絶望的であること、自分の生活を振り返りながら身をもって知ることになりました。

<とにかく実行!>

車を売り払い、ごみ削減に取り組み、子ども達と一緒に学び実行していく、「それは自分たちの未来のため、声を上げれば変わる!」と家族が一丸となって頑張ってきました。私も変わる、夫も変わるそして子ども達も。「主権者教育」がなければ未来はないという言葉もだんだん理解できるようになりました。

<気候危機と平和の危機>

気候危機への取り組みを進めていけば必ず平和の危機にも意識が向いてきます。この店で出会った人達の多くが平和運動などの経験がない人でしたが、平和憲法の記念碑建立の会や核兵器禁止条約への取り組みなどにも一緒に行動してくれる仲間が増えています。

小さな店からのメッセージが多くの人を動かしているということを実感しています。そしてお店のスタッフになり、この事業を支えるワーカーズとして更に新しい改革に挑んでいます。

<パラギさんがどうして不動産を?>

スタッフになり3年、今では不動産の相談や案内もやっています。ところが、「パラギさんがどうして不動産もやっているの?」という質問が多いのです。

エコストアと不動産を一緒に創業した武本さんは「儲け主義に走っている不動産、建築業ほど環境を破壊し、弱者を切り捨てる。だからこそそれに挑む価値がある」といいます。確かに私がこれまで相談を受けた人達は社会的弱者といわれる人たち。そんな人へもきちんと対応している不動産屋はないということです。